

学力向上フロンティアスクール中間報告書（小学校用）

都道府県名	島根県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	平田市立平田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	3	2	2	1	15	25
児童数	67	80	77	91	79	74	2	470	

平成15年6月1日より、2年生3学級，教員数26

II 研究の概要

1, 研究主題

「確かな学力」をもった“はすだっ子”の育成
～算数科，生活科を中心にして～

2, 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

3～6年生・算数科

昨年度より少人数指導等きめ細かな指導のための3人の教員加配があり，算数科を中心に授業実践を試みてきた。本年度は，昨年度の実践の成果と課題を受け，研究を継続していくこととした。10月6日，中間発表会を開催した。

1～2年生・生活科

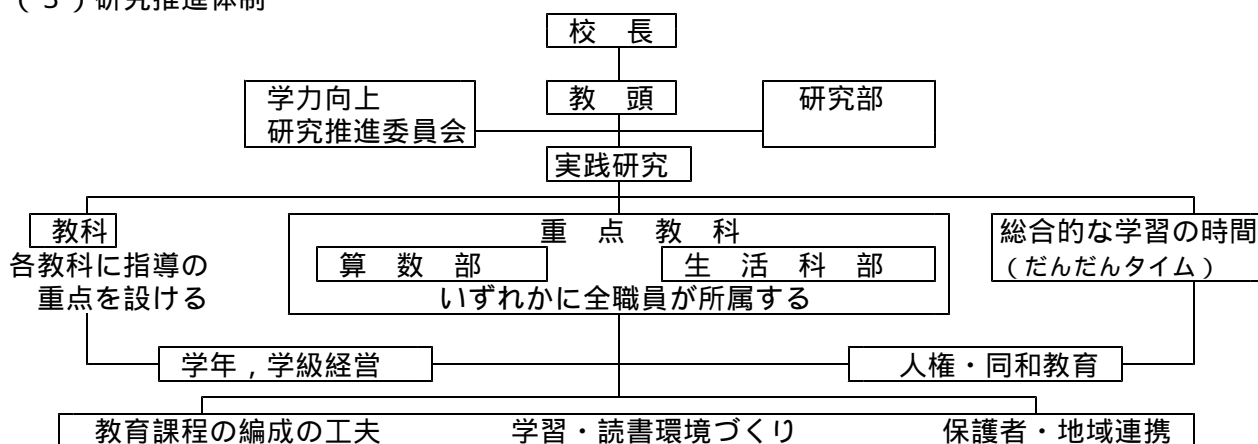
平成8年度から，総合的な学習や生活科に重点をおいた実践を積み重ねてきた。本年度は，学校としての研究実績を10月31日，島根県生活科大会において発表するとともに授業公開を行った。

(2) 年次ごとの計画

平 成 15 年 度	<p>テーマ</p> <p style="text-align: center;">「確かな学力」をもった“はすだっ子”の育成</p> <p>特に，本年度は，</p> <p style="padding-left: 20px;">気づく・深める・広げるという学習過程を組み，各ステップにおける教材開発及び指導法の工夫改善</p> <p style="padding-left: 20px;">個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善(特にグループ編成のあり方)</p> <p style="padding-left: 20px;">評価を生かした指導の改善</p> <p>に力をいれ，授業を中心に研究を深めていくこととした。</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p style="padding-left: 20px;">個に応じた指導・支援のあり方を明らかにしていけば，一人一人の「学力」が育つであろう。</p> <p style="padding-left: 40px;">～算数科，生活科を中心にして～</p> <p>研究の内容・方法</p> <p style="padding-left: 20px;">気づく・深める・広げるという学習過程を組み，各ステップにおける教材開発及び指導法の工夫改善</p> <p style="padding-left: 20px;">気づく・深める段階での学習教材と算数的活動の工夫</p> <p style="padding-left: 20px;">広げる段階での発展的・補充的な学習教材の工夫</p> <p style="padding-left: 20px;">個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <p style="padding-left: 20px;">少人数指導におけるグループ編成やTT(本年度は，特に習熟度別編成を)の工夫</p> <p style="padding-left: 20px;">学習集団の工夫</p> <p style="padding-left: 20px;">評価を生かした指導の改善</p> <p style="padding-left: 40px;">～算数科～ 毎時間あるいは単元の前後に書く算数日記及びSD法・振り返りによる意識調査を生かした指導の改善</p> <p style="padding-left: 40px;">～生活科～ カード(見つけたよ，ふりかえりカード)や対話による見取りと座席表の活用による個別支援</p> <p style="padding-left: 40px;">学力調査・学習意識調査の実施 計算会・書取会の実施(毎月)</p> <p>授業を支える取り組み</p> <p style="padding-left: 20px;">教育課程の工夫</p> <p style="padding-left: 40px;">教師の専門性を生かした時間割編成(3・5・6年生)，朝自学の時間の充実</p> <p style="padding-left: 40px;">放課後や夏休みにおける学習教室の開設(本年度全学級5日間実施)</p> <p style="padding-left: 20px;">学習・読書環境づくり</p> <p style="padding-left: 40px;">学習室整備，図書室の整備，読み聞かせ</p> <p style="padding-left: 20px;">評価規準の作成，見直し及び全教科の学力向上をねらいとした教科経営案作成</p>
------------------------	--

	地域や保護者との連携づくり
平成16年度	<p>テーマ 「確かな学力」をもった“はすだっ子”の育成</p> <p>研究の見通し（仮説） 個に応じた指導・支援のあり方を明らかにしていけば，一人一人の「学力」が育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法 重点を算数科に一本化し，15年度の研究を踏襲する予定（特に，15年度において十分にできなかった教材開発，教育課程の工夫等に力を入れていくことが必要であろう）</p>

(3) 研究推進体制



III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究の成果

本年度は，授業を中心に実践を試みた。その実践の一部を事例をまじえ成果として紹介したい。
～算数科の事例より～

① 気づく・深める・広げるという学習過程を組み，各ステップにおける教材開発及び指導法の工夫改善

6年生「体積」気づき・算数的活動

○ 気づき（深める）の段階の算数的活動・体験的
活動の工夫 3～6年生

○ 暮らしの中から問題場面を発見 3・4年生
4年生「小数」

暮らしの中から小数を見つける活動は，家庭も巻き込んで，意欲的に活動に取り組み楽しい学習ができた。

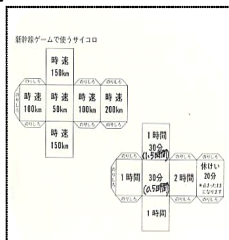
○ お助けコーナー・ヒントカードの設置 3・4年生
3年生「かけ算のひっさん」

児童のこれまでの学習の実態から，量感のつかみやすいお金の模型を教材にし，それをもとに計算のヒントとなるカードを検討し準備した。

○ 広げる段階で 個人思考の場の設定
3～6年生

6年生「速さ」

気づき～深める段階に2つのサイコロを使った新幹線ゲームを取り入れた。ゲームをしながら個人思考の場を設定したことで，公式を引き出すことが容易になった。



アの予想・・・水の量で予想と違ったので，となりの友達と相談して繰り返し調べてみた。「予想と反対でびっくり・面積と体積は違うことがわかった。でも，なぜ違うのかな・・・」

アの予想・・・アの箱とイの箱を重ねて重ならないところにサイコロつめてみる。「ア34個 イ50個・50対30でイの箱の方が多く入った。予想はまちがったけど自分で確かめよくわかった。」

算数日記「いつも何となくやっているゲームが，算数でこんなに楽しくできるなんて・・・」

○ 広げる段階でのチャレンジラリー，どんどんプリント，発展プリントの実施 3～6年生

② 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善（特にグループ編成のあり方）

○ 学習スタイル別編成

6年生

6年生では、5年生時より学習スタイル別の編成で行っている。

単元ごと1時間のガイダンスと事前テストをもとに、自分で学習しやすいコースを選択している。

どンドンコース・・・自分で解き方を考え出したり、それをもとに友達と話し合ったりして学習を進める。

じっくりコース・・・先生といっしょに解き方を考えたり、友達といっしょに活動したり、じっくりと学習を進める。

いずれのコースも、それぞれの実態に応じた単元計画や活動であるように計画している。

その他

図形単元にて「概念別編成」(5年生で実践)・・・図形の事前概念調査の結果をもとに編成を行った。

③ 評価を生かした指導の改善

○ 全国標準学力調査より観点別に考察 (H16・3月実施と比較)

3～6年生

○ 全国標準学力調査及び単元評価テスト結果を生かし、単元計画・指導法の工夫

特に習熟度が大きい学級において、少人数編成を行った際の単元計画や学習指導過程をそれぞれのコースの児童の実態に応じて、単元の流れ・扱う教材・活動そのものを組み替えて指導している。

5年生「面積」

第2時「高さ」の指導について

教科書は、長方形の「たての長さ」をそのまま「高さ」と位置づけていたので、それが児童の思考の混乱を招いた第一の原因ではないかと考えた。そこで、長方形から離れて、「高さは距離である」という考え方を取り入れることにした。

児童は1学期に、『垂直と平行』の単元において「2本の平行線の間の距離は一定である」ことを学習している。高さというよりも「距離」というイメージを持たせるために、図Aでは点と直線の、図Bでは平行な川幅の最短距離を測るための垂線を引かせた。

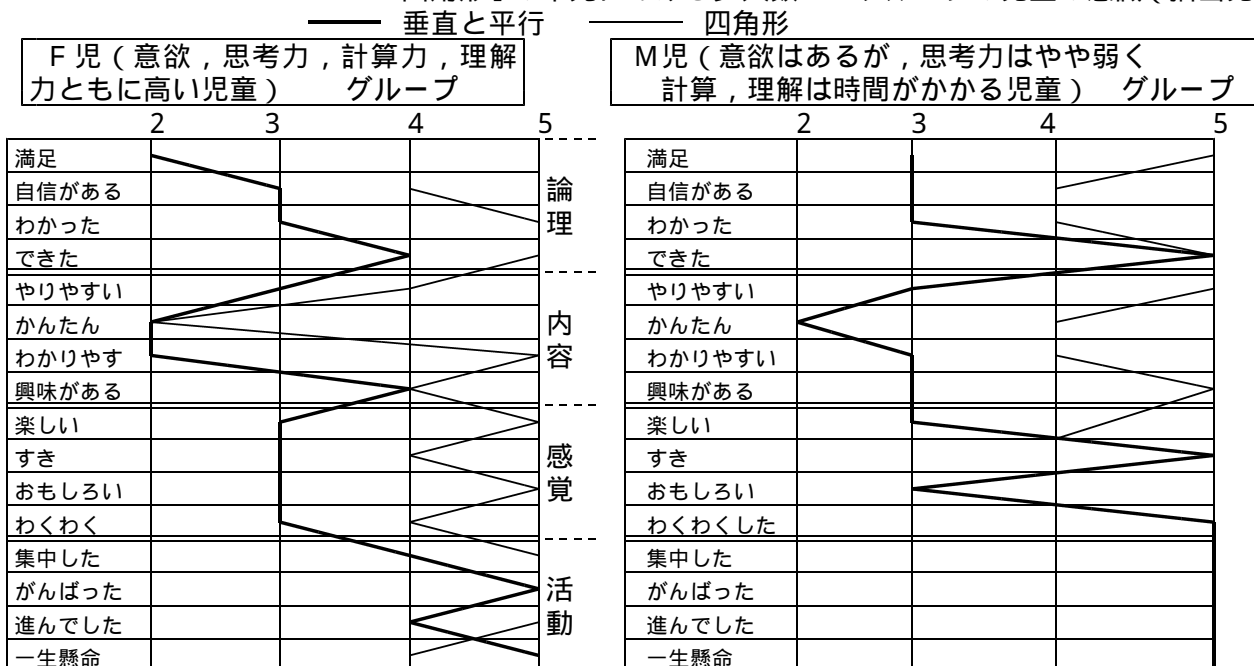
次に、図Cを使って実際にありそうな物の高さを測らせた。この場合も、いちばん高いところに地面(底辺)との平行線を引かせることを意識的に行い、特に、斜めに傾いているものの高さはどこからどこまでかを考えさせた。このことは、後で行う平行四辺形の高さを考える学習にも直結する重要な活動になったのではないかと考える。また、実際に「高さ」にあたる垂線を引かせる活動を通して、高さがどこからどこまでなのかをはっきりと意識させることができたのではないかと考える。

この結果、かなり努力を要する児童においても、評価テスト70%以上の達成を得た。



○ SD法による考察

仮説を受け、特に重点教科として指導の工夫を行った「四角形」と「垂直と平行」との比較考察
「四角形」の単元における少人数・Bグループの児童の意識(抽出児)



F児・・両単元とも内容面で、「かんたん」と思っているにもかかわらず、また一生懸命活動しているにもかかわらず、論理面・感覚面・内容（わかりやすさ）では、かなり差が生じた。
学習後の評価結果は、下記ようになった。

	全 体	F 児	M 児	
垂直と平行・評価テスト1	80以上11人, 70~80 3人, 50~70 2人	95	70	M児の 伸びが 大きい
単元末評価テスト2	全員80以上	100	80	
四角形・・・評価テスト1	80以上9人, 70~80 5人, 45~55 2人	100	80	
単元末評価テスト2	80以上11人, 70~80 2人, 50~70 3人	100	85	
単元末評価テスト3	全員85以上	100	95	

○算数日記, 振り返りカードの活用

～生活科～

① 子どもの思いや願いにそった学習活動の展開について

○ 学習材の開発と対象との出会わせ方の工夫

「蓮田公園」... 1年生では、道路を挟んで校庭の南側にある公園を1年間を通じて活動する場に設定している。思う存分自然に浸りながら、見つけたり遊んだりする活動を繰り返し行うことで、季節の変化を感じると共に、親しみのある場所になっている。

「市立図書館」「子どもが見つけた公共施設」... 2年生では、公共物や公共施設の利用に関する学習の際、利用経験のある市立図書館を導入の学習材とすることで、この単元の活動への意欲づけになるとともに、この単元の学習の仕方を学ぶことができた。また、市立図書館での活動の後、町探検で子ども達が見つけた公共施設を繰り返し探検することで、公共施設の利用の仕方や気づきに深まりが見られた。

○ 学習過程の工夫＝学習のステップ化

学習を「ふれる ふかめる つたえる いかす」という過程で進めることで、学習や活動の仕方を学んだり、活動や気づきに深まりが見られたり、多様な表現ができたりした。

○ 活動の練り直し

子どもの思いや願いに応じて、単元計画を変更することにより、活動意欲が継続した。



② 評価規準に照らし合わせた見取りとそれに応じた支援について

設定した評価規準・見取る子どもの姿（評価の視点）にそって見取りをし、それをチェックリストや座席表に記録することで、子どもの学習の実態を把握したり変容を把握することができた。また、記録をもとに支援を考え、受動的評価だけでなく能動的評価も積極的にでき、学習の目標にそった活動に導くことができた。

観 点	活動や体験についての関心・意欲・態度					
	単 元	みんなでいこうよ、わんぱくランドへ				
単元の目標	はずだ公園でいろいろなものを見つたり遊んだりする活動や、友だちに遊びのおもしろさを伝える活動を通して、樹木や草花、虫などの自然に親しむことができる。					
チ ェ ッ ク リ ス ト		遊びを見つけている	遊びを見つけている	自分の思いを伝えようとしている	自然物を使って楽しく遊んでいる	そ の 他
	<input type="checkbox"/> 男	◎	◎	◎		あみも用意してきてずっとトンボを追い回していた。カエルも捕まえて器用に袋の水を飲み替えようとして、中庭の池の水を飲みにいっ足。
	<input type="checkbox"/> 子	◎				かまきりをつかまえた。バッタを食べるところを機嫌よく見て食べてくれた。
	<input type="checkbox"/> 美					
	<input type="checkbox"/> 郎	◎	◎			ダンゴムシの話をよく見えていて白い旗を掲げようとした。ムシ探しに夢中になっていた。

～授業を支える取組み～

教育課程の工夫

・教師の専門性を生かした時間割編成（3・5・6年生）

本年度は、学級人数の多い3・5・6年生を中心に、算数・国語・家庭科・（音楽）を学年あるいは、学年部で教科担任制を試みた。学年全体を複数の目で見ることができると一貫した指導内容を図ることができる良さが考えられる。

・放課後や夏休みにおける学習教室の開設（本年度全学級5日間実施）

学習教室の開設は、児童、とりわけ保護者から好意的な感想・意見をいただき、次年度は、開設の内容をさらに改善していきたい。

学習・読書環境づくり

学習室整備とりわけ少人数教室の黒板等快適に学習できる条件が整ってきた。また、図書

館司書の配置により静かに読書ができる図書室の環境づくりができた。
評価規準の作成，見直し及び全教科学力向上をねらいとした教科経営案の作成を行った。
地域や保護者との連携づくり

校報，学校だより，学習室だより等，また授業公開日による少人数編成指導の全学級公開，
我が子の伸ばしたい力調査等々連携を図ることができた。

2 今後の課題

算数科の実践から

- ・ 気づく・深める・広げるという学習過程を組み，各ステップにおける教材開発及び指導法の工夫改善について
特に教材開発については，試行錯誤の実践であり，本年度の評価をもとに発達段階に即した実践が求められる。
- ・ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善について
学習スタイル別編成において，児童の実態（評価より）に基づいたそれぞれのコースの単元指導計画を考えていく必要がある。

本年度の取り組みを継続しつつ，H16，3月に予定している全国標準学力調査の比較検討により，指導のあり方を模索していく。

生活科の実践から

学習材は子ども達の学習意欲に直結する大切なものであり，身近にある素材から子ども達に何を出会わせるかで，その単元の学習意欲や活動が大きく変わってくる。また，学習材に繰り返し出会わせることにより，活動や気づきに深まりが見られたり，親しみが増し学習材をより身近なものに感じたりすることも分かった。そして，「評価規準」や「評価の視点」の有効性，見取りを記録することの大切さ等にも気づいた。

教師の専門性を生かした時間割編成の導入の検討，導入後の成果の把握をしていく必要がある。

IV 学力等把握のための学校としての取り組み

全国標準学力調査（田中式）の実施

目的 児童の学力の状態を把握し，この結果をもとにし指導実践にいかす

実施内容 算数科の学習内容

時期 H15，5（1回目），H16，3（2回目を予定）

学習意識調査

目的・実施内容 児童の学習意識を把握し，この結果をもとにし指導実践にいかす

時期 H15，6

SD調査

目的・実施内容 児童の学習後の意識を把握し，この結果をもとにし指導実践にいかす

時期 H14，5より，継続して実施

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 研究会，説明会の開催実績および開催予定

フロンティアスクール中間発表会（算数科訪問指導）

日時 10月7日（火）

場所 平田小学校

対象 管内フロンティア校・フロンティア委員・平田市内小中学校

会の目的 算数科の研究の普及及び研究をさらに深めるため

島根県生活科大会

日時 10月31日（金）

場所 平田小学校

対象 島根県内小中学校

会の目的 生活科の研究の授業公開及び成果普及のための授業分科会

- ・ 研究成果の普及のためのHP作成，パンフレット作成等の実績及び今後の予定，フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績

研究実践集録作成（1月）・HP情報公開

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 > 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
- > 13～18学級 19～24学級
- 25学級以上
- 【指導体制】 > 少人数指導 > T.Tによる指導
- > 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 > 算数 理科
- > 生活 音楽 図画工作 家庭
- 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 > 有 無